



TWEET

在日コリアン いちオンマの思い

私は5歳、2歳、0歳の三人の子どもの母親です。

長男は、和歌山市内にある朝鮮学校の附属幼稚園に通っています。朝鮮学校という言葉は初めて耳にする方もいるかも知れません。朝鮮学校は、在日朝鮮人、韓国人の子ども達が通う学校です。朝鮮学校では、日本の学校のカリキュラムに加え、ハングルや朝鮮の歌、文化、歴史などを学びます。

日朝、日韓の政治的な関係の冷え込みにより、朝鮮学校を取り巻く環境は厳しいです。自治体からの補助金給付停止、朝鮮学校への高校無償化適用除外、朝鮮学校へのヘイトスピーチの問題。自分も子どもの頃朝鮮学校に通っていましたが、その時にはわからなかった大変さを、親になって初めて痛感しています。

子ども達が自分のルーツを知り、自分の母国の言葉や文化を知り、自分の存在を肯定するために学ぶこと。この権利が、政治的な理由で侵害されることは、あってはならないことであり、国際的にも非難されています。政治と教育は、切り離して考えられるべきです。

このような朝鮮学校を取り巻く問題を解決しようと、たくさんの日本の方々から力を貸してくださいます。私は、このような問題は在日朝鮮・韓国人の問題だと考えていましたが、支援して下さる方々は、これは日本社会の問題であり、自分達の問題だと言ってくださいます。地域の日本学校との交流会、スポーツ分野での練習試合なども盛んです。公開授業に来ていただき授業の様子を見てもらうなど、たくさんの方々から朝鮮学校への理解を深めてもらう活動も、定期的に行われています。支援して下さる方々や、朝鮮学校に興味を持って下さる周りの人々の温かさには、いつも励まされています。

私達家族が住むマンションには、同じくらいの子どもの育てる家族がたくさんいます。子ども達はマンション前の公園で毎日のように遊んでいて、家族ぐるみでとても仲良しです。子ども達は、うちの長男の幼稚園のことを「ユーチバン」、私のことを「〇〇くんのオンマ」などと、韓国語で呼びます。うちの子も、「△△くんのママ」、「□□ちゃんのかーたん」などと、それぞれの国の言葉で呼びます。そこには、国がどうか、政治がどうかということは全くなく、お互いを当り前のように尊重する自然な空気があります。学校を取り巻く問題のことで元気がない時も、そんな子ども達の交流を見ると、とっても救われます。こんな風に、お互いの違いをありのままに認め合える子ども達が、そのまま大人になったら、素敵な世の中になるのかなあと少し期待もしながら、その姿に毎日癒されています。

私自身はとても小さく、できることは少ないかも知れませんが、子ども達の笑顔を守るために、できることをコツコツとやっていきたいなあと考えています。

高 稚英

このコーナーはぐるんばママの「つぶやき」を随時掲載します。お楽しみに！投稿も大歓迎です！